

## GPUクラスタによる計算がゴードン・ベル賞のファイナリストに



記者会見の様様



研究施設での実演

工学部では、(独)理化学研究所、ブリストル大学、電気通信大学、慶応義塾大学と共同でGPU（ゲームの描画処理用のプロセッサとして発展し、コストパフォーマンスに優れたグラフィックス向けプロセッサ）の科学計算に向けた応用研究を進めています。

このたび、濱田テニユア・トラック助教を中心としたこの共同研究において、256台のGPUを並列に動作させることにより、天文学・流体力学への応用計算における42テラフロップス（毎秒42兆回計算）の実行性能を達成しました。

この研究論文が、高性能計算に関して最も権威のある賞の一つである、ゴードン・ベル賞のファイナリスト（最終候補）に選ばれました。なお、本賞の受賞者は、2009年11月に開催される国際学会「Supercomputing 2009」において発表されます。

このことについて、8月7日、片峰学長同席のもと記者会見を行い、小栗教授から研究の概要、期待される成果、将来への展望などが発表され、引き続き、本研究の計算機を設置している研究施設に移動し、計算の実演が行われました。

(平成21年8月・工学部)